

今週のテーマ

1. 一週間のまとめ
 - (1) 与党陣営の動き
～Alex Saab 氏 米国へ引き渡し～
..... 1p
 - (2) 野党陣営の動き
～Quero 氏の死亡巡る人権問題を訴え～
..... 3p
 - (3) 外国の動き
～ベネズエラ市場参入企業が増加～
..... 3p
 - (4) 今週、来週の主なイベント
..... 5p
 - (5) 債券の元利不払い状況
..... 6p
2. ベネズエラの新車販売市場
(2026年1～4月)
..... 7p

債券指標の動き

3. ベネズエラ債券・経済指標の増減
..... 13p

カントリーリスク分析



(写真) BitacoraEconomica (写真は Alex Saab 氏)

“暫定政権 アレックス・サアブ氏の身柄を米国へ移送”

1. 一週間のまとめ(2026年5月17日～5月23日)

(1) 与党陣営の動き ～Alex Saab 氏 米国へ引き渡し～

今週の与党陣営で最も大きな動きはアレックス・サアブ氏の米国への身柄引き渡しだろう(「[ベネズエラ・トゥデイ No.1371](#)」)。

5月18日にはデルシー・ロドリゲス暫定大統領、ディオスダート・カベジョ内務司法平和相、ホルヘ・ロドリゲス国会議長らが相次いで本件に言及(「[ベネズエラ・トゥデイ No.1372](#)」)。

特にホルヘ・ロドリゲス国会議長は、「サアブ氏は2019年以前から米国機関と接触していた」と発言。更に、米「麻薬取締局(DEA)」や「米連邦捜査局(FBI)」への情報提供疑惑についても言及しており、今後さらなる情報公開を行う可能性を示唆した。

POINT

なお、サアブ氏の妻であるカミラ・ファブリ氏および子供がイタリアへ出国したことも確認されている。

経済面では、「ベネズエラ中央銀行 (BCV)」が、2026年第1四半期 (Q1) の GDP 成長率を前年同期比 2.51% 増と発表した。石油部門はマイナス成長となった一方で、金融、商業、宿泊、製造業など非石油部門が成長を牽引したと説明している（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1373](#)」）。

2026年に入りベネズエラ経済に回復の兆しが見え始めているものの、電力不足問題は依然として深刻。

暫定政権 アレックス・サアブ氏の身柄を米国へ移送。

Chevron 幹部は、停電問題が油井運営に悪影響を与えていると指摘。更に、コメ栽培業界団体も、停電によって全国の作付面積の約 60% が影響を受けていると警告した。

また、「ベネズエラ工業連合会 (Conindustria)」や商業団体「Consecomercio」なども、発電事業の制度改革の必要性を訴えており、電力問題が引き続き経済活動の大きな足かせとなっている。

BCV 発表 26年 Q1 の GDP 成長率、前年同期比 2.51% 増。

また、政治犯解放を巡る動きも大きなテーマとなった。

5月19日、ホルヘ・ロドリゲス国会議長は、「来週中に300人の拘束者を解放する」と発表。その後、5月21日には実際に38人の政治犯が解放されたことが確認されている。

電力問題が経済成長の足かせに。

また、5月22日にはデルシー・ロドリゲス暫定大統領が、最終的に500人以上の拘束者を解放する方針を表明した。

ただし、人権団体側は政府発表に懐疑的な姿勢を示している。

5月22日時点で、人権団体「Justicia, Encuentro y Perdón」は「約束された300人のうち、実際に解放されたのは43人で10%程度に過ぎない」と指摘しており、今後も追加解放が行われるかが注目される。

POINT

(2) 野党陣営の動き ～Quero 氏の死亡巡る人権問題を訴え～

野党陣営は引き続き政府の人権問題への批判に注力している。

批判の争点は、2025年7月に刑務所収容下で亡くなった Victor Hugo Quero Navas 氏（以下、Quero 氏）について。同氏は25年7月に亡くなったが、死亡が発表されたのは26年5月で約10カ月もの間、家族に通知することがなかった。

刑務所内で死亡した
Quero 氏の母親が死
亡。

なお、この間も Quero 氏の母親は息子の安否と所在を確認するための抗議行動を行っており、野党側は「政府による意図的な死亡隠ぺい行為」と批判を強めている。

政府への人権侵害の批
判高まる。

この問題に拍車をかけたのは、Quero 氏の母親の死亡。

Quero 氏の母親（Carmen Teresa Navas 氏）が5月17日に亡くなった。息子の死亡が発表されてから10日後の死亡であり、精神的な疲弊が原因の1つとの声が挙がっている。

この悲劇の連鎖により、暫定政権の非人道性を非難する声が高まっている。

ロドリゲス暫定大統領は、Quero 氏の死因について調査を行い、全容を解明するために全力を尽くすことを約束。問題の火消しを試みている。

このような背景から、与党は政治犯の解放を進めている側面もあるだろう。また、5月12日にトランプ大統領がベネズエラの政治犯について「全て（の政治家）を外に出す」とコメントしており（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1369」](#)）、米国から圧力を受けた可能性もある。

米 ExxonMobil 今月
中にベネズエラ再参入
発表の可能性。

(3) 外国の動き ～ベネズエラ市場参入企業が増加～

今週の外国勢力では、ベネズエラ市場への参入・再参入の動きが更に加速した。

エネルギー分野では、米 ExxonMobil が今月中にもベネズエラ再参入を発表する可能性があることが報じられた。過去の接収のトラウマからベネズエラ再参入に消極的な姿勢を示していた企業の方針転換は大きな変化を予見させる。

POINT

**Aeroméxico 10月
からカラカス直行便を
再開。再開は10年ぶ
り。Envoy Air、1日2
便に増便。**

加えて、日本の石油連盟の木藤俊一会長は、日本の一部製油所が既にベネズエラ原油を調達していることを明らかにした。同会長は、中東情勢の不安定化を受け、日本の製油会社が調達先の多角化を進めていると説明。米国産原油に加えて、メキシコ、エクアドル、ベネズエラなど中南米産原油も利用していると述べた。

航空分野では、Aeroméxicoは10月からカラカス直行便を再開すると発表。また、ALAV（ラテンアメリカ航空協会）は、ベネズエラーチリ、ベネズエラーペルー間の直行便再開に期待感を示したほか、マトゥリン空港では国際線運航再開が発表された。

他、American Airlines傘下の「Envoy Air」は、1日1便（マイアミーカラカス）だった運航を1日2便に拡大した。加えて、米国の「運輸保安局（TSA）」のスタッフらがマラカイボ空港（スリア州）、バルセロナ空港（アンソアテギ州）の施設を視察。現在米国とベネズエラを結ぶ路線はカラカス着便のみだが、地方への直行便再開の期待が高まっている。

**ベネズエラ銀行（BDV）
がErebor Bankとコ
レス契約を締結。**

通信分野では、メキシコの通信企業「Apco Networks」が、衛星通信サービス「Starlink」の正式展開に向け、通信当局 Conatel と接触していることが報じられた（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1372」](#)）。

金融分野では、国営銀行「ベネズエラ銀行（BDV）」が米フィンテック系銀行「Erebor Bank」とコレス契約（コレス銀行契約）を締結した（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1373」](#)）。この契約により、近日中に米国市場との直接的な外貨取引、送金、決済を行えるようになる見通しだという。

**Renault、ベネズエラ市
場での販売拡大を検
討。**

自動車分野でも市場再参入の動きが見られた。

フランス系自動車メーカーRenaultのコロンビア法人「Renault-Sofasa」は、ベネズエラ市場での販売拡大を希望していると表明。ベネズエラ自動車市場は依然として小規模であるものの、2026年に入り販売台数は回復傾向を示しており、外国メーカー側も市場回復に期待感を示し始めている。

なお、現在のベネズエラの自動車市場については、本稿「ベネズエラの新車販売市場（2026年1～4月）」を参照されたい。

（４）今週、来週の主なイベント

5月21日 マルコ・ルビオ国務長官は、デルシー・ロドリゲス暫定大統領がインドを訪問すると発表した。

インドの訪問予定は来週。同じ週にマルコ・ルビオ国務長官もインドを訪問することになっており、インドでロドリゲス暫定大統領と面談する可能性が報じられている。

ルビオ国務長官によると、ロドリゲス暫定大統領の訪印目的は、「ベネズエラ原油の輸出先拡大」。ホルムズ海峡封鎖懸念などを受け、インドによるベネズエラ原油需要拡大への期待も高まっている。

表： 5月17日～5月23日に起きた主なイベント

日付			内容
5月	17日	日	アレックス・サアブ氏 米国へ身柄引き渡し
	18日	月	
	19日	火	オルテガ経済担当副大統領 BIDのベネズエラ代表を兼務
	20日	水	中央銀行 26年Q1のGDP成長率発表、前年同期比2.51%増
	21日	木	AA傘下のEnvoy Air マイアミーカラカス間を1日2便に増便
			ベネズエラ銀行 Erebor Bankとコルレス契約を締結
	22日	金	暫定大統領 来週中に政治犯500人解放を発表
			パナマから初の人道支援便が到着、134人帰国
	23日	土	米国大使館 緊急避難演習を実施

表： 5月24日～5月31日に予定されている主なイベント

日付			内容
5月	24日	日	
	25日	月	ロドリゲス暫定大統領 25日の週にインドを訪問予定
	26日	火	
	27日	水	
	28日	木	
	29日	金	
	30日	土	
	31日	日	

(5) 債券の元利不払い状況

表：ベネズエラ債券の債務不履行額（5月22日時点）

（単位：100万ドル）

種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
国債	国債19	19年10月13日	7.75%	4/13 10/13	2,495	1,740.3	4,235.3
	国債24	24年10月13日	8.25%	4/13 10/13	2,495	1,852.5	4,347.5
	国債25	25年4月21日	7.65%	4/21 10/21	1,600	1,101.6	2,701.6
	国債26	26年10月21日	11.75%	4/21 10/21	3,000	3,172.5	6,172.5
	国債23	23年7月5日	9.00%	1/5 7/5	2,000	1,620.0	3,620.0
	国債28	28年5月7日	9.25%	5/7 11/7	2,000	1,665.0	3,665.0
	国債18	18年12月1日	7.00%	6/1 12/1	1,000	595.0	1,595.0
	国債20	20年12月9日	6.00%	6/9 12/9	1,500	720.0	2,220.0
	国債34	34年1月13日	9.38%	1/31 7/13	1,500	1,195.3	2,695.3
	国債31	31年8月5日	11.95%	2/5 8/5	4,200	4,266.2	8,466.2
	国債18	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	300	347.4	647.4
	国債18F	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	752	870.9	1,622.9
	国債22	22年8月23日	12.75%	2/23 8/23	3,000	3,251.3	6,251.3
	国債27	27年9月15日	9.25%	3/15 9/15	4,000	3,145.0	7,145.0
国債38	38年3月31日	7.00%	3/31 9/31	1,250	743.8	1,993.8	
グレースピリオド満了未払					31,092	26,286.7	57,378.7
種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
PDVSA債	PDVSA26	26年11月15日	6.00%	5/15 11/15	4,500	2,430	6,930.0
	PDVSA24	24年5月16日	6.00%	5/16 11/16	5,000	2,700	7,700.0
	PDVSA21	21年11月17日	9.00%	5/17 11/17	2,394	1,939	4,333.1
	PDVSA35	35年5月17日	9.75%	5/17 11/17	3,000	2,633	5,632.5
	PDVSA220	22年2月17日	12.75%	2/17 8/17	3,000	3,443	6,442.5
	PDVSA27	27年4月12日	5.38%	4/12 10/12	3,000	1,451	4,451.3
	PDVSA37	37年4月12日	9.75%	4/12 10/12	1,500	1,316	2,816.3
	PDVSA22	22年10月28日	6.00%	4/28 10/28	3,000	1,710	4,710.0
	PDVSA20	20年10月27日	8.50%	4/27 10/27	1,684	1,360	3,043.5
グレースピリオド満了未払					27,078	18,981.3	46,059.1
	電力債18	18年4月10日	8.50%	4/10 10/10	650.0	442.0	1,092.0
グレースピリオド満了未払					650.0	442.0	1,092.0
合計					58,820	45,710	104,530

(出所) Av Security よりベネインベストメント作成

POINT

2. ベネズエラの新車販売市場(2026年1~4月)

今回はベネズエラの新車市場の状況について確認したい。

「ベネズエラ自動車商工会議所(CAVENEZ)」が発表した統計によると、2026年1~4月の新車販売台数は1万5409台となり、前年同期比64.5%増加した。2025年同期の9366台から大幅に拡大しており、ベネズエラ自動車市場の回復傾向が継続していることが確認された。

26年1~4月 新車

販売台数は前年同期比

64.5%増の1万5

409台。

今回の統計で最も注目される点は、中国系ブランドの存在感拡大である。ブランド別販売台数では、中国系メーカー「JAC MOTORS(以下、JAC)」が6604台を販売し、市場シェア42.9%を獲得した。2位のTOYOTA(4291台、シェア27.8%)を大きく引き離しており、ベネズエラ市場における圧倒的な首位となっている。

表： 2026年、25年1~4月の新車販売台数

(単位：台数、%)

会社名	2026年				合計	割合	前年 同期比	2025年1~4月 合計
	1月	2月	3月	4月				
JAC MOTORS	1,672	1,303	1,762	1,867	6,604	42.9	90.8	3,461
TOYOTA	1,003	1,043	1,201	1,044	4,291	27.8	21.0	3,545
CHANGAN	154	214	292	302	962	6.2	55.4	619
FIAT	105	205	165	133	608	3.9	49.8	406
FORD	100	167	175	164	606	3.9	131.3	262
HYUNDAI(MMC)	100	104	159	163	526	3.4	172.5	193
FOTON	69	126	106	135	436	2.8	67.0	261
KIA	88	87	79	100	354	2.3	61.6	219
MACK	53	86	71	60	270	1.8	全増	0
HONDA	11	47	88	84	230	1.5	全増	0
FCA(JEEP, RAM)	28	64	87	45	224	1.5	25.1	179
RENAULT	45	47	44	45	181	1.2	126.3	80
JMC	25	15	16	21	77	0.5	54.0	50
FORTHING	4	5	3	7	19	0.1	△26.9	26
ISUZU	4	5	1	1	11	0.1	1,000.0	1
IVECO	0	4	4	2	10	0.1	△16.7	12
合計	3,461	3,522	4,253	4,173	15,409	100.0	64.5	9,366

(写真) ベネズエラ自動車商工会(CAVENEZ)

POINT

JAC は前年同期比 90.8%増、市場シェアの42.9%。

TOYOTA は同21%増の4291台。

また、前年同期比でも JAC は 90.8% 増加しており、新車販売市場の牽引役となった。販売台数自体も多いが、増加ペースでも高い伸びを示している点が特徴的と言える。

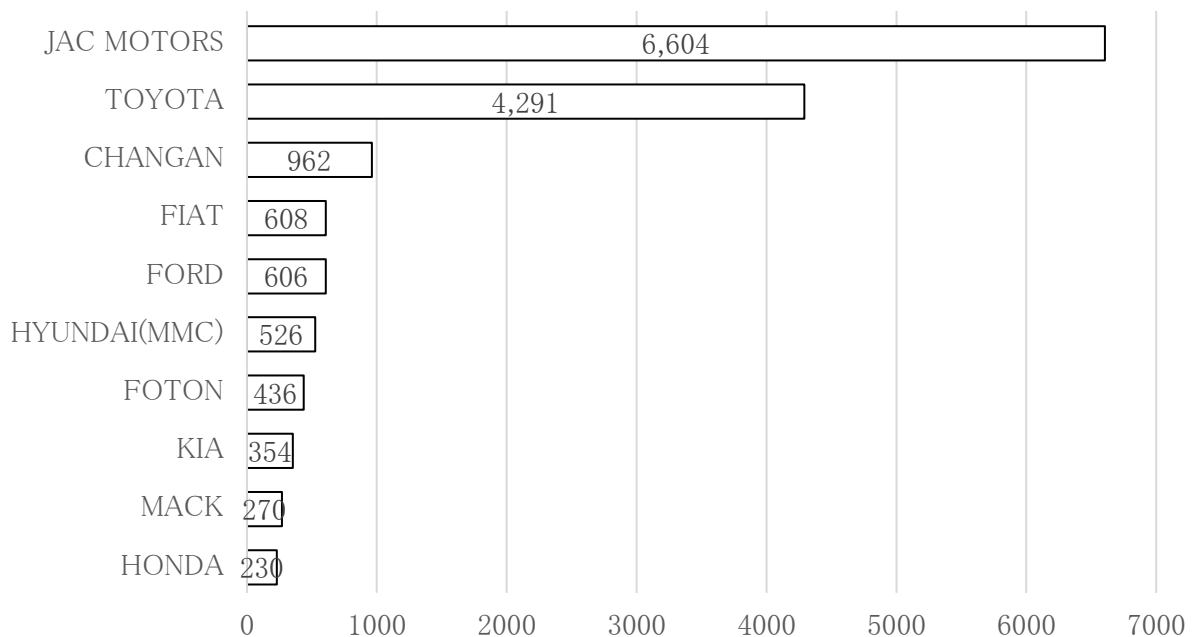
日本メーカーの TOYOTA も 4291 台を販売し、依然として高いブランド力を維持している。ただし、前年同期比の伸び率は 21.0% であり、ベネズエラの新車販売市場の平均成長率 (64.5%) を下回った。この結果、市場シェアで JAC との差が拡大した格好となっている。

3位には中国系「CHANGAN」が962台で続いているほか、FOTONも436台を販売しており、中国メーカーの存在感が一段と強まっている。

欧米系メーカーでは FORD が 606 台、FIAT が 608 台、韓国系では HYUNDAI が 526 台、KIA が 354 台となった。

また、MACK が 270 台、HONDA が 230 台を販売するなど、一部ブランドでは市場復帰の動きも確認されている。特に MACK および HONDA は前年同期販売実績がゼロであり、「全増」となっている点が特徴である。

グラフ:ブランド別新車販売台数上位トップ10(2026年1~4月)



(出所)ベネズエラ自動車商工会(CAVENEZ)

POINT

モデル別販売ランキング、TOP 10のうち4台は JAC。大型車販売も好調で国内需要を取り込んでいる。

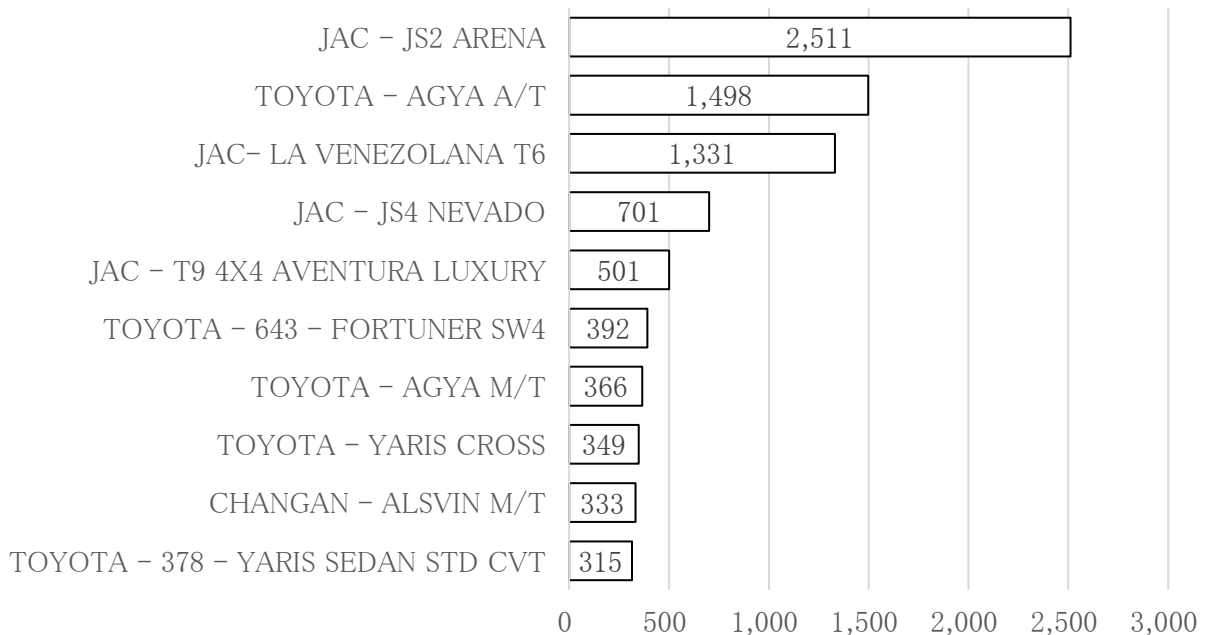
モデル別販売ランキングを見ても、JAC の強さが際立っている。

販売台数トップは「JAC JS2 ARENA」で、販売台数は2 5 1 1台に達した。2位は「TOYOTA AGYA A/T」の1 4 9 8台、3位は「JAC LA VENEZOLANA T6」の1 3 3 1台となっている。トップ10のうち4モデルを JAC が占めており、ベネズエラ市場における同ブランドの浸透が確認できる。

特に JAC は SUV およびピックアップトラック分野で強みを発揮している。「JS4 NEVADO」、「T9 4X4 AVENTURA LUXURY」など SUV・大型車の販売も好調で、国内の悪路対応需要や商業利用需要を取り込んでいる可能性がある。

TOYOTA については、「AGYA」「YARIS」など、比較的小型かつ燃費性能に優れた車種が上位に入っている。また、大型車の「FORTUNER」の販売も好調。依然として日本車に対する信頼性評価は高く、都市部の中間層を中心に一定の需要を維持しているとみられる。

グラフ:モデル別新車販売台数トップ10(2026年1~4月)



(出所)ベネズエラ自動車商工会(CAVENEZ)

POINT

販売車両の内訳を見ると、乗用車比率が高いことも特徴となっている。

2026年1～4月の販売台数のうち、乗用車は約71.5%（1万1017台）、商用車は約28.5%（4392台）となった。商用車需要も一定規模存在するものの、足元では個人向け需要の回復が市場拡大を主導していることがうかがえる。

完成車の輸入販売が全

体の56.6%。

また、興味深い点として、販売車両の生産方法が挙げられる。

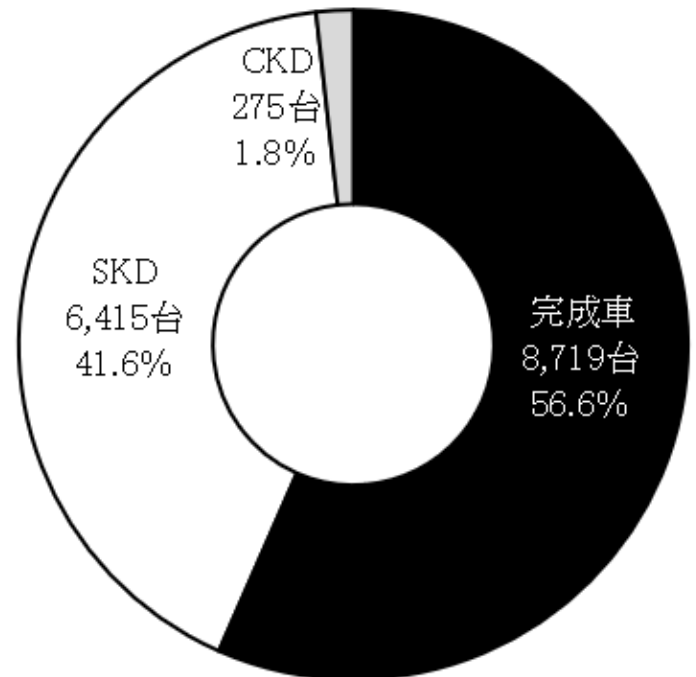
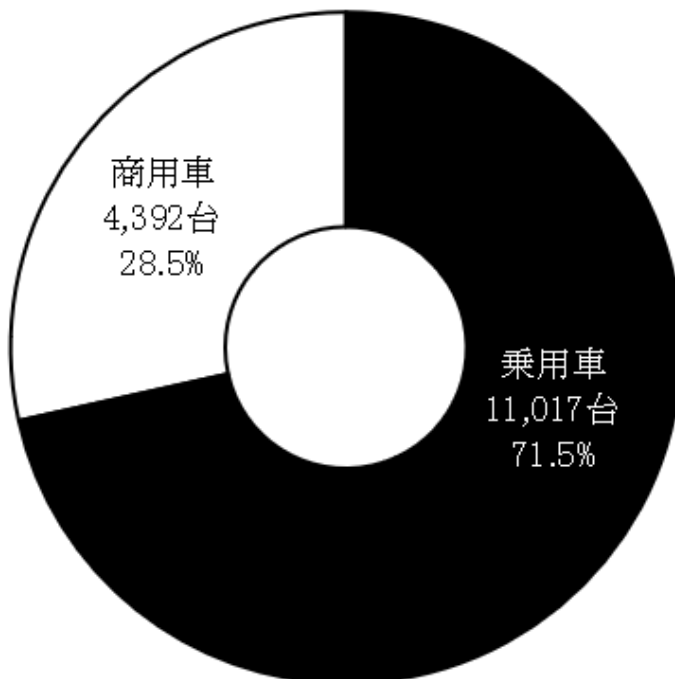
販売新車のうち、完成車輸入（CBU）が8719台と過半数（56.6%）を占めている一方、SKD（セミノックダウン）が6415台（41.6%）、CKD（コンプリートノックダウン）が275台（1.8%）となった。

SKDが41.6%。

これは、JACを中心にベネズエラ国内で一定の組立生産が行われていることを示している。なお、組立方式は、主要部品が組み立てられた状態で輸入・組み立てを行うSKDが基本であり、すべての部品をバラバラの状態で購入し、組み立てるCKDと違い、比較的簡易な方式が中心となっている。

グラフ：乗用車、商用車販売割合（2026年1～4月）

グラフ：販売新車の生産方法（2026年1～4月）



（出所）ベネズエラ自動車商工会（CAVENEZ）

表： 2026年1～4月の新車販売台数

(単位：台数、%)

会社名	2026年				合計	割合
	1月	2月	3月	4月		
JAC MOTORS	1,672	1,303	1,762	1,867	6,604	42.9
商用車	739	523	758	572	2,592	16.8
乗用車	933	780	1,004	1,295	4,012	26.0
TOYOTA	1,003	1,043	1,201	1,044	4,291	27.8
商用車	169	120	120	142	551	3.6
乗用車	834	923	1,081	902	3,740	24.3
CHANGAN	154	214	292	302	962	6.2
商用車	18	26	18	19	81	0.5
乗用車	136	188	274	283	881	5.7
FIAT	105	205	165	133	608	3.9
乗用車	105	205	165	133	608	3.9
FORD	100	167	175	164	606	3.9
商用車	36	73	71	71	251	1.6
乗用車	64	94	104	93	355	2.3
HYUNDAI(MMC)	100	104	159	163	526	3.4
商用車	0	2	0	0	2	0.0
乗用車	100	102	159	163	524	3.4
FOTON	69	126	106	135	436	2.8
商用車	69	126	106	135	436	2.8
KIA	88	87	79	100	354	2.3
乗用車	88	87	79	100	354	2.3
MACK	53	86	71	60	270	1.8
商用車	53	86	71	60	270	1.8
HONDA	11	47	88	84	230	1.5
乗用車	11	47	88	84	230	1.5
FCA(JEEP, RAM)	28	64	87	45	224	1.5
RENAULT	45	47	44	45	181	1.2
JMC	25	15	16	21	77	0.5
FORTHING	4	5	3	7	19	0.1
ISUZU	4	5	1	1	11	0.1
IVECO	0	4	4	2	10	0.1
合計	3,461	3,522	4,253	4,173	15,409	100.0

(写真) ベネズエラ自動車商工会 (CAVENEZ)

ブランド別では乗用車・商用車の販売割合に特徴がある（前ページの表参照）。

JACは6604台のうち、乗用車が4012台、商用車が2592台となっており、乗用車・商用車の双方で強い競争力を持っている。特にJAC商用車は全体の16.8%を占めており、物流・建設・インフラ関連需要を取り込んでいる可能性が高い。

TOYOTAについては、4291台のうち3740台が乗用車であり、比較的都市型・個人消費型市場に強みを持つ構造となっている。CHANGAN、HYUNDAI、KIA、HANDAも基本的には乗用車中心の販売構成となっている。

これに対し、FOTONおよびMACKはほぼ全量が商用車であり、ベネズエラ国内の輸送・物流需要の回復を反映している可能性がある。特に石油産業、建設業、鉱業などでは、近年トラック需要が徐々に回復しているとの指摘もある。

図：CAVENEZ 加盟企業のエンブレム（参考）



3. ベネズエラ債券・経済指標の増減(5月22日時点)

解説

銘柄	利率	満期	BID	ASK	平均	先週比
2018-I	13.625	2018/8/15	59.35	61.35	60.35	△ 1.79
2018-II	13.625	2018/8/15	59.30	60.90	60.10	△ 1.92
2018	7	2018/12/1	44.95	46.40	45.68	△ 2.66
2019	7.75	2019/10/13	46.30	47.80	47.05	△ 2.79
2020	6	2020/12/9	44.45	45.80	45.13	△ 3.06
2022	12.75	2022/8/23	57.00	58.45	57.73	△ 2.12
2023	9	2023/7/5	50.30	51.75	51.03	△ 2.58
2024	8.25	2024/10/13	48.10	49.65	48.88	△ 2.83
2025	7.65	2025/4/21	47.45	49.00	48.23	△ 3.07
2026	11.75	2026/10/21	57.50	58.75	58.13	△ 2.35
2027	9.25	2027/9/15	52.65	53.80	53.23	△ 2.79
2028	9.25	2028/5/7	51.40	52.65	52.03	△ 2.67
2031	11.95	2031/8/5	57.55	58.80	58.18	△ 2.43
2034	9.375	2034/1/13	52.30	53.45	52.88	△ 3.07
2038	7	2038/3/31	47.75	48.90	48.33	△ 3.20
電力債 2018	8.5	2018/4/10	38.55	39.90	39.23	△ 0.95

	利率 %	満期	BID	ASK	平均	先週比
2020	8.5	2020/10/27	103.50	104.85	104.18	0.31
2021	9	2021/11/17	45.95	46.50	46.23	△ 4.00
P 2022	12.75	2022/2/17	53.15	54.05	53.60	△ 1.65
D 2022(N)	6	2022/10/28	38.00	38.90	38.45	△ 2.29
V 2024	6	2024/5/16	39.85	40.75	40.30	△ 0.92
S 2026	6	2026/11/15	39.80	40.50	40.15	△ 1.65
A 2027	5.375	2027/4/12	38.40	39.40	38.90	△ 2.75
2035	9.75	2035/5/17	48.00	48.75	48.38	△ 1.12
2037	5.5	2037/4/12	38.45	39.45	38.95	△ 2.87

	百万ドル	先週比
外貨準備	14,686	10.57

為替レート	ボリ/ドル	先週比
両替テーブル	530.50	2.42
並行レート(Binance)	721.85	3.79

(出所) Avsecurity、ベネズエラ中央銀行、
Exchange Monitor

今週のベネズエラ債は、国債・PDVSA社債ともに先週比マイナスとなった(PDVSA 2020除く)。

2026年に入ってから上昇が続いているベネズエラ債だが、ここにきて一部では、ベネズエラ債券の現在の価格について「期待先行」との意見も出始めている。(「[ベネズエラ・トゥデイ No.1373](#)」)。

また、特筆すべきは外貨準備の増加だろう。

先週末時点で約132.8億ドルだった外貨準備が、今週は約146.9億ドルとなった。

本件に関する報道は現時点では確認できていないが、米国で保管されていた原油収入が中央銀行に流れてきたことが要因とされる。

以上